

関西国際空港の飛躍に向けて



(財)関西空港調査会 理事長 吉川 和広

新年おめでとうございます。

今年は、関西空港が大きく飛躍する年であり
ます。

関西空港は、本年8月に2本目4,000m滑走路を
供用開始し、わが国初の本格的24時間運用の国
際拠点空港となります。浅沼会長が、大阪が変わり、日本が大きく変わると常々おっしゃって
おられますが、私も同感であります。また、そ
うしなければならぬと考えております。

そのためには、東アジアにおける空港間競争
に勝ち抜く空港とするための方策、経営基盤の
戦略的強化、関西3空港の連携、道路ネットワ
ークの早期実現等々、多くの課題の解決に取り組
んでいかなければなりません。

関西空港が十二分に能力を発揮できるよう
に、関係諸氏の英知を結集することが必要です。

当調査会は、昨年12月に設立30周年を迎えま
した。これを期に、浅沼が理事長を勇退し、私
が理事長に就任いたしました。会長の浅沼
共々、今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、この30年は、大海原であった泉州の海
に、1期島が誕生し、1994年開港、さらに2期島
が出現、そして、2期の供用と、大きなエネル
ギーが結集し、目に見えて発展してきた年月で
ありました。関西空港の建設事業は、海上に環
境に配慮した国際空港を創るため、先見性があり熱意を持った諸先輩が結集し、実に多くの
方々の参画を得て現在に至った、世紀の大事業

であります。この思いを胸に、関西空港の完成
に向けて、発展させていかなければなりません。

これからは、完全供用するための着実な空港
施設の整備促進とあわせ、グローバル化の進
展、国際航空の自由化、ネットワーク・キャリ
アの再編、ローコスト・キャリアの台頭という
新しい時代を迎え、東アジア地域の航空・空港
の動向を的確に把握し、関西空港の方向性を示
すことが求められています。

空港調査会は、平成12年に、関西における航
空交通の研究拠点づくりのため、多くの専門家
の参画を得て「航空交通研究会」を設置し、活
発な情報発信を行ってきました。さらに昨年10
月には「ロジスティクス研究会」と「エアポート
ビジネス研究会」を立ち上げ、自主研究活動を
充実させたところです。専門家や研究者を招い
てのレクチャーや、参加メンバーの熱のこもっ
た討議が行われています。今の時代こそ、若い
方々が、明日の関西の空港、明日の関西につい
て、大いに議論し、夢を語り合うことが必要で
あると考えます。

空港調査会は、10年先、20年先を見据え、新
しい時代をリードするシンクタンクとして、関
西のため日本のために貢献して参りたいと考
えております

引き続き、皆様方のご支援ご指導をお願いい
たします。